

パブリックコメント等意見等集約表

- 意見等を求めた事項：「南相馬鹿島サービスエリア周辺開発基本計画（素案）」について
- 意見等の募集期間：令和7年6月1日（日）から令和7年6月20日（金）
- 意見等総数：48件（地域協議会30件、パブリックコメント18件）

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
1	鹿島区地域協議会	事業スケジュールが遅れるような要素はあるのか。	質問	説明	S A 周辺開発の想定区域において、埋蔵文化財の存在を確認しており、今後調査が必要となります。調査結果によっては、スケジュールが遅れる要因になると想定しています。
2	鹿島区地域協議会	大熊町に計画されている道の駅の影響について伺う。	質問	説明	大熊町から先日示された「大熊IC周辺整備基本計画」を拝見すると、隣接するパーキングエリアを介して高速道路と直結する道の駅を整備する構想があるものと認識しております。一方で、高速道路の直結のために必要となるパーキングエリアの事業化については、現時点で国土交通省やネクスコ東日本から公表されておらず、これから協議がなされるものと思われる。本市としては、引き続き今後の推移を注視してまいりたいと考えます。 本市が目指すのは、民間事業者のノウハウを最大限に活用しながら魅力ある地域資源を来場者に提供する場所をつくることであり、大熊町の道の駅の影響が全くないとは言いきれませんが、差別化は十分可能であると考えております。
3	鹿島区地域協議会	花見山へのアクセス道路は複数整備するのか。現状の1箇所では少ないと感じる。	意見	説明	花見山については、高台を登ったところに東屋を整備しており、天気の良い時には海が望めるような場所となっております。その一方で現在は、ご指摘の通りアクセス道路が1本しかなく、駐車場も限られていることから、より多くの方にご利用いただくことが難しい状況になっています。そのため今回の開発に併せて、より多くの方に楽しんでいただけるような仕掛けを考えてまいります。
4	鹿島区地域協議会	地元にも花見山のようなものを作りたい方がいる。このような方々を巻き込んで、利用者がセデッテかしまから外に出ていく流れを作ることも重要であると考える。	意見	説明	今回の事業コンセプトの1つとして、「一緒に育てるSA」を設定しています。これは、SAを魅力がある場所にするため、住民の皆さんと共に周辺開発を取り組んでいくことで、愛着や誇りを育むことを狙いとしています。花見山をはじめ、様々な場面で意欲ある住民の皆さんを巻き込んで行きたいと考えておりますので、是非ご紹介いただきたいと思います。
5	鹿島区地域協議会	高台から海を展望できるような、景色を楽しむ場所があっても良いと思う。	意見	説明	天気の良い時には、サービスエリア西側の花見山から海が望めます。更に、計画対象区域においては高台になっていることから、景観がこのエリアの目玉の1つになるような仕掛けについても、検討してまいりたいと思います。
6	鹿島区地域協議会	早く事業を進めたほうがいいのではないか。	意見	説明	今回の開発においては、民間事業者との連携が重要なポイントであると考えており、このエリアのポテンシャルを最大化するための最適な民間事業者を選定するためには、十分な時間をかけて慎重に取り組んで行く必要があります。一方で、今回想定している事業スキームである民間事業者への設計・施工・管理運営の一括発注方式では、時間短縮も見込まれますので、そのような利点も活かしながら、可能な限り早期の供用開始を目指してまいります。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
7	鹿島区地域協議会	民間事業者との意見交換における反応は。 競合施設や民間事業者の参画を促進するため、周辺開発のPRを積極的にお願いしたい。	意見	説明	令和4年度に実施した初期段階でのサウンディングには、12社の参加がありました。また、基本計画の策定にあたり実施した地元事業者をはじめとする70以上の民間事業者との対話の中でも、多くの関心や好意的な意見を寄せていただいています。一方で、地元事業者については、今回想定している手法にあまりなじみが無いことから、更なる啓発が必要であるとも考えています。引き続き周辺開発に関する情報発信や対話に努めてまいります。
8	鹿島区地域協議会	鹿島区の子どもたちや若い世代が利用するような開発としていただきたい。	意見	説明	今回の事業コンセプトの1つとして、「一緒に育てるSA」を設定しています。これは、SAを魅力がある場所にするため、住民の皆さんと共に取り組んで行くことにより、愛着や誇りを育むことを狙いとしています。この活動に子供たちや若い世代の方々に参加していただき、加えてクリエイティブ性やデザイン性の付加価値を掛け算することは、単に「行きたい場所」「おすすめしたい場所」となるだけでなく、将来「働きたい場所」と感じてもらう上でも、効果的であると考えておりますので、このような取り組みを進めてまいります。
9	小高区地域協議会	顧客がサービスエリアに流れてしまう恐れがあり、周辺開発の計画には基本的に反対である。	意見	説明	市が今回の開発で目指しているのは、サービスエリアに気軽に立ち寄った時に、期待値を超える魅力に触れることにより、この地域のファンになっていただき、もっと深くこの地域を知るために、まちなかへ行きたくさせるサイクルを回すことです。ここでの「地域」とは、鹿島区だけではなく南相馬市全体を想定していますので、地域全体に効果が波及することを目指すものです。今後も地元の事業者の皆さんにご理解いただけるよう、対話を進めてまいります。
10	小高区地域協議会	合併特例債の活用については反対である。	意見	説明	今回の周辺開発は、合併特例債の対象である合併市町村が一体感を得ることができる事業であり、新市建設計画においても明記されています。また合併特例債は、単なる借金ではなく、事業費の95%に充当することができ、元利償還金の70%が普通交付税で措置される大変有利な財源であることから、今回の開発においても選択肢の1つと考えています。なお、実際の活用に当たっては、適宜、各区地域協議会にご相談させていただきます。
11	小高区地域協議会	温浴施設は利用者が見込めるのか。	質問	説明	本計画で想定している温浴施設については、来場者にご利用いただくことで、当該エリアへの滞在時間を延ばし、地域資源の魅力を存分に体感していただくことをねらいとしたものです。高速道路に直結した場所であることから、長距離運転による心身の疲れを癒すニーズはあるものと考えます。 また、温浴施設については民間事業者自らの設計・建設・運営を想定していることから、魅力的なだけでなく、採算性も考慮した規模・機能を備えた提案がなされることを期待しています。
12	小高区地域協議会	市内には博物館があるのにも関わらず、相馬野馬追伝承施設を設置するのか。	質問	説明	相馬野馬追は1千年以上の歴史を有する最大の地域資源ですが、その魅力を市内外の方々に伝えられるのは野馬追開催時の3日間に限られているのが現状です。市内で最も集客力のある場所に伝承施設を設置することで、より多くの人に相馬野馬追を知るきっかけを提供できると考えております。また、本施設によって興味を持った人が、野馬追に参加するきっかけや武具や馬具等の修繕技術の継承のきっかけを作れるような施設にすることを想定しています。一方で博物館については、幅広い展示を行っており、相馬野馬追の伝承を担う機能が十分ではないことから、本施設のような野馬追文化の伝承に特化した施設が必要であると考えています。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
13	小高区地域協議会	運営会社について、大手ゼネコンやNEXCOといった大手主体の組織になってしまうのではないか。	質問	基本計画に反映 (追記)	本計画はまちを元気にすることが目的であり、これを実現するためにはこのエリアのポテンシャルを最大化するための最適な民間事業者を選定したいと考えており、そのためには公募する為の要件が必要です。また、先行事例においては、地元事業者との連携を公募要件として設定する事例が多く見受けられることから、今後の公募書類の作成において検討を進めてまいります。 また、本計画（素案）において、地元事業者との連携についての記載が無かったことから、追記いたします。 【追記箇所】 「1. はじめに」「(1)南相馬市の現状と課題及び周辺開発の目的」「周辺開発の目的」（P5）へ追記及び「官民連携手法の検討」（P6）を追加。 詳細は資料3のとおり。
14	小高区地域協議会	大熊町に計画されている道の駅の影響をどのように考えているのか。	質問	説明	大熊町から先日示された「大熊IC周辺整備基本計画」を拝見すると、隣接するパーキングエリアを介して高速道路と直結する道の駅を整備する構想があるものと認識しております。一方で、高速道路の直結のために必要となるパーキングエリアの事業化については、現時点で国土交通省やネクスコ東日本から公表されておらず、これから協議がなされるものと思われます。本市としては、引き続き今後の推移を注視してまいりたいと考えます。 本市が目指すのは、民間事業者のノウハウを最大限に活用しながら魅力ある地域資源を来場者に提供する場所をつくることであり、大熊町の道の駅の影響が全くないとは言いきれませんが、差別化は十分可能であると考えております。
15	小高区地域協議会	大きな駐車場を先に整備してしまう考えはあるのか。	質問	説明	現在も、年末年始やゴールデンウィーク期間に駐車場が満車となり、高速道路の本線まで渋滞し、立ち寄っていただけの利用者を逃している状況が発生しています。折角当地に立ち寄っていただけるチャンスを逃すことになりますので、用地を取得し、駐車可能な状況となりましたら、全面供用開始前であっても柔軟な対応が図れるよう検討を進めてまいります。
16	小高区地域協議会	地域協議会やパブリックコメント実施して終わりではなく、常に市民の意見等を聞くことや意見等を吸い上げることを継続するべきである。	意見	説明	今回の周辺開発においては、いかに地元の民間事業者の皆さんに関わって頂くか、場づくりに関わって頂くことによっていかに多くの方の愛着と誇りを育むか、といった視点が重要であると考えます。このことから、基本計画が確定した後も、供用開始に至るまで、引き続きご意見をいただく機会を設けてまいります。
17	小高区地域協議会	各施設の配置について、駐車場から近いほうが良いと思う。特に、買い物ができる施設は、車を降りてすぐに行けた方が利用者の利便性も高い。	意見	説明	今回の事業コンセプトは繰り返し訪れて頂くことを狙いとしていることから、来訪時の利便性も大変重要な要素と考えています。このことから、来訪目的に応じて、駐車場所を選択できるなどの工夫も必要であると考えますので、ご指摘を踏まえ検討してまいります。
18	小高区地域協議会	鹿島区のスマートインターチェンジで降り、小高区まで回遊して小高区のスマートインターチェンジから高速道路に戻るような仕掛けができれば良いと感じる。	意見	説明	市が今回の開発で目指しているのは、サービスエリアに気軽に立ち寄った時に、期待値を超える魅力に触れることにより、この地域のファンになっていただき、もっと深くこの地域を知るために、まちなかへ行きたくさせるサイクルを回すことです。ここでの「地域」とは、鹿島区だけではなく南相馬市全体を想定していますので、地域全体に効果が波及することを目指すものです。開発後のエリアにおいて小高区の魅力を発信することによって、ご指摘の仕掛けは実現可能と考えます。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
19	小高区地域協議会	サイクリングロードの活用について伺う。	質問	説明	南相馬鹿島SAについては、現在においても真野川親水サイクリングロードの起点として設定しており、事業コンセプト「まちをつくるSA」における「①まちに人を送り出す」を実現する上では、重要なコンテンツであると考えておりますので、積極的に活用していきたいと思っています。
20	小高区地域協議会	宿泊施設がSAにあるのは便利で需要があると感じる。	意見	説明	宿泊施設については、当該エリアへの滞在時間を延ばすとともに、より深く地域資源を体感していただくための手法のひとつとして想定したものです。頂いたご意見を踏まえ、事業者公募に向けて検討を進めてまいります。
21	原町区地域協議会	現時点では周辺にS A ・ P A がないという理由で立ち寄っているのだけではないか。ハコモノ整備は慎重に検討する必要がある。	意見	説明	南相馬鹿島SAに当初想定約3倍にあたる利用者が訪れている理由として、前後にSA・PAがないという立地的優位性も大きいとは思いますが、オープン以来、指定管理者としてご尽力いただいている株式会社野馬追の里の功績も大変大きいものと考えています。その証として、6年連続で「プロが選ぶ観光・食事・土産物施設100選」に選出されるなど、高い評価を得ています。 今回の周辺開発においては、全国的にも稀な事例である、SAに隣接して地元自治体が商業施設を整備しているという特性を活かし、従来のSAが求められる機能に「まちをつくる」視点を加えていきたいと考えています。 また、今回の基本計画策定を通して、民間事業者と連携することにより、市の負担を極力小さくしながら魅力的な場所を創出するイメージも見えてきましたので、民間事業者との対話を継続しながら、イメージを確かなものとしていきたいと思っています。
22	原町区地域協議会	野馬追伝承施設の整備を想定しているが、市博物館との違いは。	質問	説明	相馬野馬追は1千年以上の歴史を有する最大の地域資源ですが、その魅力を市内外の方々に伝えられるのは野馬追開催時の3日間に限られているのが現状です。市内で最も集客力のある場所に伝承施設を設置することで、より多くの人に相馬野馬追を知るきっかけを提供できると考えております。また、本施設によって興味を持った人が、野馬追に参加するきっかけや武具や馬具等の修繕技術の継承のきっかけを作れるような施設にすることを想定しています。一方で博物館については、幅広い展示を行っており、相馬野馬追の伝承を担う機能が十分ではないことから、本施設のような野馬追文化の伝承に特化した施設が必要であると考えています。
23	原町区地域協議会	基本計画の収支シミュレーションでは、宿泊施設の収入が2億8千万となっており、相当な大規模施設と想定する。旅館組合としてS A 周辺開発に期待しながらも、当地域の復興に10年間に貢献してきたからこそ、水を差されるものが整備されることであれば賛成できない。また、大手や外資系などが参画し、税金を持っていかれてしまうのも危なさを感じる。地元の旅館組合の中で誰かが参画したいとなれば話は別だが。今後、旅館組合との調整も必要と考える。	意見	説明	東日本大震災からの復興過程において、市外からの観光客や復興作業に当たる作業員の皆様が無事過ごせるひとときを提供してこられた、旅館業組合の皆様のご尽力には頭が下がる思いです。 その上で、今回の周辺開発においては、地域資源の魅力を発信することにより、当地域の新たなファンを生み出すことを目指していることから、地域全体の宿泊者が増えるような取組を進めていきたいと考えていますので、引き続きご相談させていただきたいと思っています。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
24	原町区地域協議会	「まちをつくるSA」の取組について、計画書の表記だと移住者に特化した取り組みに見えミスリードの恐れがある。	意見	基本計画に反映 (修正・追記)	ご意見をいただきました【②まちを再生する】については、決して「新たな移住者」のみを想定したものではなく、地元出身者のUターンも想定したものです。実際に、大学進学時に若者が大量流出していた地方都市において、若者が働きたくなる場所ができたことによって、Uターン者が激増した先行事例は全国に数多く見られます。今回の周辺開発によって、新たな移住に加えてUターンの増加も実現したいことから、この項目を設定しました。意図が伝わりづらかったことから、Uターンの表記を加えました。 併せて、既存生産者にもメリットがあるものと考えるところから、その旨加筆しました。 【修正箇所】 「7. 事業コンセプト」「(3)まちをつくるSA」「②まちを再生する」の説明文へ 「市内の既存生産者にとってもプラスとなる。」を追記。(P54) 詳細は別紙3のとおり。
25	原町区地域協議会	まちに人を送り出すという取組は、真野川親水サイクリングロードの活用も考えているのか。	質問	説明	南相馬鹿島SAについては、現在においても真野川親水サイクリングロードの起点として設定しており、事業コンセプト「まちをつくるSA」における「①まちに人を送り出す」を実現する上では、重要なコンテンツであると考えておりますので、積極的に活用していきたいと思っております。
26	原町区地域協議会	総論は賛成だが、どのような事業者と進めていくのか。 設計・施工・運営まで一括発注でこれだけ事業費が大きければ、大手ゼネコン等の参画が想定される。大手企業が下請けも連れてきて全く地元が入れないようなことがないよう、地元業者も潤うような、民業圧迫しない仕組みづくりが必要である。	意見	基本計画に反映 (追記)	本計画はまちを元気にすることが目的であり、これを実現するためにはこのエリアのポテンシャルを最大化するための最適な民間事業者を選定したいと考えており、そのためには公募する為の要件が必要です。また、先行事例においては、地元事業者との連携を公募要件として設定する事例が多く見受けられることから、今後の公募書類の作成において検討を進めてまいります。 また、本計画(素案)において、地元事業者との連携についての記載が無かったことから、追記いたします。 【追記箇所】 「1. はじめに」「(1)南相馬市の現状と課題及び周辺開発の目的」「周辺開発の目的」(P5)及び「官民連携手法の検討」(P6)に追記。 詳細は資料3のとおり。
27	原町区地域協議会	宿泊施設を整備するのであれば、地元の宿泊事業者や北泉キャンプ場との調整が必要。お互い競合させるのではなく、相乗効果が図れるような取組を期待する。	意見	説明	今回の周辺開発においては、地域資源の魅力を発信することにより、当地域の新たなファンを生み出すことを目指していることから、地域全体の宿泊者が増えるような取組を進めていきたいと考えています。また、事業コンセプト「まちをつくるSA」における「①まちに人を送り出す」を実現する上では、北泉キャンプ場は重要なコンテンツであると考えておりますので、SAに立寄った人を誘導できるような方策につきましても、検討してまいります。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
28	原町区地域協議会	牧場を整備するなら市内の馬の飼養者に相談して、JRAの重賞で勝った馬（サラブレッド）を活用することも特徴を出すひとつの方法ではないか。また、地元農産物や海のものの活用も有効である。	意見	説明	ご提案いただきありがとうございます。当地域の馬事文化をより魅力的に発信する手法として、大変有効であると考えます。地域資源とどのように向き合うのが今回の周辺開発においては問われるものと考えております。地元で採れた農産物や魚介類についても、「どこにでもあるもの」と捉えるのではなく、この地域との関係性を掛け算することで、その魅力が大きく増すものと考えています。その魅力を直接多くの人に伝えられる場所があるというのが、当地域にとっての大きな強みであると考えますので、いただいたご提案も大いに参考にさせていただきます。
29	原町区地域協議会	鹿島商工会などと連携しながら中高生など多くの市民から意見等を聞くなど、地元住民や市民が行きたくくなるような、遊べる場所・食べる場所を考えていただきたい。	意見	説明	今回の基本計画の策定に当たっては、鹿島商工会をはじめとする各区の商工団体をはじめ、農業関係、子育てサークルの皆さんなど、多くの方と対話を進めてきました。その結果として、今回の基本計画において事業コンセプトとしてまとめたのが「一緒に育てるSA」です。SAを行きたくくなるような魅力的な場所とするのはもちろん、SAを成長させていく活動に住民が参加することにより、愛着や誇りを育み、さらにクリエイティブやデザイン性を掛け算することにより、地元の皆さんに行きたいと思ってもらえる場所をつくっていききたいと思います。
30	原町区地域協議会	飲食施設で地元食材を使うような取組が必要と考える。	意見	説明	地域の魅力を伝えるうえで、飲食コンテンツが担う役割は極めて大きいものと考えており、今回の周辺開発において、地元食材の活用、地元事業者の参画は不可欠であると考えています。また、味覚だけでなく、その場の雰囲気から視覚、聴覚、嗅覚を刺激することも、繰り返し訪れたい場所とするためには、重要な要素であると考えますので、事業者の公募にあたっては、良い提案が得られるよう取り組んでまいります。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
31	パブリックコメント	建設費用・運営資金の保証債務関連に関して ①当該の運営企業が金融機関等から借入れ資金を返済する際の契約事項には、南相馬市が何らかの保証をする必要があるのかどうか。もし、この開発事業が計画の収入に満たなく赤字経営になった場合には、南相馬市が何らかの資金援助を求められる等の契約書が実行されることはないのか。 ②南相馬市が出資する資金「（財源；35.7億円の内、純然たる借金・地方債）」の返済計画は大丈夫なのか？その返済額（年間）は、予算額に占める割合はどうなっているのか？市議会に提出して「バブ・コメ」を募集したので、この予算が通っても南相馬市の財政、予算には問題ないと判断したのだろう。財政面で不安・危惧があるのかないのか。 ③国が出した「骨太の方針2025」では、日本の債務残高対GDP比を下げていくことが打ち出された。国では、財政課健全化が強く推進する必要性を打ち出した。アベノミクスで日本銀行が、従来は「禁じ手」であった国債受入れをさせられ、積極的に購入していた。今後は従来のような金額の受け入れはもうできない状況になるだろう。長期国債の金利上昇と買い手がいないことは、円安になる要因の一つである。そのような状況で財務省の担当責任者たちが海外投資家に依頼して（赤字）国債の受入れ依頼の営業をかけるというNHKの報道番組があった。このことは、日本の財政が悪化する恐れが少しでもあれば、海外投資家が損切するためすぐに売却されることを意味する。日銀が文句も言わず安定して未来永劫保有できる状況ではなくなってきている。今までと違い、国債が「通常の株取引の世界」になり財政の安定化が期待できない事態になる。 その結果として放漫経営の市町村では、国・金融機関からの支援が期待できない恐れのある事態がでてくることは否定できない。夕張市のように。 もし、国家財政の危機が発生したら、地方の市町村ではそのまま補助金の削減、交付金の削減があるのだろう。 交付金・補助金頼りの南相馬市の財政運営では、常日頃からの財政健全化に努めないと非常に危険で綱渡り的な財政運営となる危険性がある。	意見	説明	①本計画（素案）における収益が見込まれる施設（物販・飲食・温浴）については、民間事業者が資金繰りを含めて設計から整備・維持管理・運営を行うことから、ご指摘いただいたような市が財政負担する「赤字補填」や「資金援助」は考えておりません。 ②③今回の事業は、民間事業者のリソースやノウハウ、資金を最大限活用しながら、官民共創により周辺開発を進めて行くものであり、市の財政負担を減らすことが実現できる計画を取り纏めたところです。収支計画のシミュレーションにおける市の初期投資につきましては、ご意見の通り約35.7億円ですが、国・県からの補助金・交付金や地方債の交付税措置などにより、実質的な市の負担は約6.8億円です。またこの負担につきましても、民間事業者からの賃料や借地料による収入により改修することが可能であり、加えて2億円程度のプラスになると試算しております。詳細な試算内容については、本計画（素案）「12. 収支計画のシミュレーション（P107～P108）」に記載しております。また、収支計画のシミュレーションについては、事業コンセプトを実現するために現時点で想定されうる施設における条件を考慮しシミュレーションしたものですので、実際の収支計画については、公募による民間事業者の提案を受け最終的に決定します。
32	パブリックコメント	少子高齢化社会の急激な進行の中で、安定した事業展開の可能性の危うさ 添付した将来人口推計（2050年まで）から急激な人口減少がまさに止められない状態になっていく。開業年（2030年）には南相馬市の人口が40％前後の減少、さらに20年後（2050年）には45％以上の減になる。この期間に国内・県内の活気などあるのだろうか？ 全国の2024（R6）年の出生者が68.6万人との報道があった。70万人を切ったのである。国の推定よりも15年も早い数字との報道があった。想定的人口減少と高齢化が一段と加速する環境となった。 このことから、希望的で憶測だらけの大規模な事業を計画して市民に提案して意見を聴取すること自体が「無責任」「恥の上塗り」と叩かれても反論することなど出来ない。	意見	説明	仮にご意見のような人口減少が現実になった場合であっても、高速道路利用者や物流機能については、大幅に減少するものではないと考えております。 加えて、人口減少が進行しているからこそ、交通利便性の高く人が集まりやすい高速道路上において、まちをつくる拠点を整備して行く必要があるものと考えております。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
33	パブリックコメント	集客方法の不明瞭さと通行量調査から算出した立ち寄り者数の推計数 ①現状120万人から250万人への人数の算出方法への疑問 ②高齢者の増加で高速道路及び一般道の利用者が期待できるものか大いに疑問である ③全国各地の事例はたくさん参考に掲載されているが、この成功例とかノウハウの紹介がない。集客方法の不明瞭さが目立つ。 ④高速道路の4車線化に伴い交通量の増加が期待できる証明が明確でなく、説得力に欠ける。	意見	説明	①利用者の将来推計については、本計画（素案）「6. サービスエリア集客見込み（P 5 0 ～P 5 1）」に記載の通り、過去の利用実態調査や他のSA・PAや道の駅の実績から算出したものであり、十分に実現可能と考えております。 ②ご意見の通り高齢化は進行するものの、類似施設の結果から立寄率を増加させることは十分可能であり、利用者の増加は十分期待できると考えております。 ③一例を挙げますと、「川口ハイウェイオアシス（P 1 1 2）」につきましては、既存の高速道路休憩施設に隣接する形で後発的に公園や商業施設を整備した施設であり、本周辺開発における舞台の状況と一致することから、周辺開発検討委員会においても視察を行っております（P 4 7）。また、「KADODE OOI GAWA（P 1 2 4）」につきましては、事業コンセプト「まちをつくるSA」における「④まちに人を送り出す」仕掛けの1つとして参考にしており、本計画に活かしております（P 5 4）。 ④本計画（素案）「6. サービスエリア集客見込み（P 5 0）」に記載の通り、東日本高速道路株式会社の資料「常磐自動車道の路線概要」による山元IC～岩沼IC間の4車線化に伴う交通量増加の実績を基に算出しており、十分に増加が期待できると考えております。加えて、東京-仙台間の全線4車線化が実現すれば、常磐道の走りやすさや降雪量の少なさから、多くの車両が東北道からシフトすることも期待できます。
34	パブリックコメント	入札後の運営企業の在り方 これほどの巨大プロジェクトには、強固な組織力・資金力・ヘコタレナイ人材が必須であり、成功させるシステム（仕掛け）が必須だろう。 基本コンセプト「伝えたくなるSA」「一緒に育てるSA」「まちをつくるSA」とあるが、この資料からは読みとめない。わくわく感などどこを見ても読めない！基本コンセプトの設定が間違いなのではないか。地元の住民の雇用が期待されるとあるが、96億円資金で実際の程度の雇用が可能なのだろうか？甚だ疑問である。パッセンジャー（通過人）とステイ（滞在者）を分けて考察すべきもの。 「雇用促進」も図るという。幾らこの概念が試案といえども想定の実用人数がないのも不思議なプランである。物販・宿泊・温浴等に関わるスタッフの人数の予定数の提示が必須の項目であるはず。	意見	説明	今回の事業コンセプトの1つである「「伝えたくなる」がたくさんあるSA」では、観光を目的とした滞在者だけではなく、仕事や移動などの普段使いで気軽にSAに立ち寄った人が、期待値を超える体験や体感を通じてファン（推し）になることを目指しています。 また、ご意見の雇用人数につきましては、今回の事業は民間事業者のリソースやノウハウ、資金を最大限活用しながら、官民共創により周辺開発を進めて行くものであり、整備する施設については、最終的に民間事業者の提案を受け決定するものであることから、現時点で想定はしておりません。なお、「1 2.収支計画のシミュレーション」における支出につきましては、各業態の収入における平均支出割合から算出しており、想定の実用人数等が必要のない方法を採用しております。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
35	パブリックコメント	【S A 周辺開発の目的・事業コンセプトについて】 「南相馬鹿島サービスエリア周辺開発 Q & A」の中で、「Q どのような課題の解決を目指すのか？」との問いに対し前段では、人口が減少するとともに高齢化率の上昇し、市の活力が低下していることを課題とされています。一方後段では、本市と周辺地域が多くの魅力を有しているものの『情報発信やPR が十分でない』、『市民が自慢できる場所・行きたい場所・連れていきたい場所がないという声が多い』との記述がありますが、前段と後段で述べられていることの因果関係が不明です。加えて、「南相馬鹿島サービスエリア周辺開発基本計画の概要」内の「南相馬市の現状と課題及び本計画策定の目的」において、目的は『市内の地域活動や経済に波及させる』ことであると明確に記載されていますが、「まちを元気にする」とはどのようなことなのか。コンセプトが抽象的であることには一定理解をしますが、目的が抽象的であることは、事業目的から導出される「目的達成手段の選定」や「成果の検証」が曖昧なものになることを意味しています。「人口増」なのか「経済効果」なのか、または両方なのか（両方だとしても優先順位を決めるべきであり、全てをこの事業だけで解決するかのような目的設定は止めるべきです）	意見	基本計画に反映（修正・追記）	「南相馬鹿島サービスエリア周辺開発 Q & A」において、「人口減少」「高齢化率の上昇」「情報発信・PR不足」「市民が自慢できる場所の不足」を課題として掲げたところですが、これらは相互に因果関係を持つものではなく、市を取り巻く課題を列挙したものです。一方で、ご指摘にもあったとおり現状と課題の関係性が伝わりにくいと判断し、基本計画の内容を修正いたしました。 併せて、いただいたご意見から、今回の周辺開発の目的も明確に伝える必要があると考え、【周辺開発の目的】の項を新たに追加しました。 【修正箇所】 「1. はじめに」「(1)南相馬市の現状と課題及び本計画策定の目的」を「(1)南相馬市の現状と課題及び周辺開発の目的」に修正し、「南相馬市の現状と課題」及び「周辺開発の目的」を追記。（P 5） 詳細は資料 3 のとおり。
36	パブリックコメント	【野馬追の伝承施設について】 ・「伝承施設」設置の目的と効果の曖昧さ 施設設置自体が目的化しており、「何を、誰に、どのように伝えるのか」「どのような効果を地域にもたらすのか」が明確ではありません。 既存の博物館や各地の騎馬会、一般社団法人相馬野馬追との役割分担や連携、持続的な運営資金の確保策も不透明です。 また、「伝承施設」を設置することにより、初陣騎馬武者の増加や馬具、武具等の修繕の技術の継承を目指す。とされていますが、何故伝承施設の設置が初陣騎馬武者の増加や馬具・武具等の修繕の技術継承につながるのでしょうか。 肝心なことは施設の設置ではなく、施設を活用して、「誰が」「どのように」「何をする」ことによって技術継承が達成されるか、というロードマップであり、その道筋が曖昧なまま、「なんとなくこういう施設があった方が技術継承に繋がりそうだね」という雰囲気だけで計画に加えられているという印象を拭えません。 ここでも目的と手段の論理が乖離しているので、その間を埋める具体的な道筋について具体的な行程やエビデンスがないまま計画に入れるべきではないと考えます。 ・観光資源化の限界とリスク 馬事文化や伝統行事を観光資源化する際、単なる「見せ物」にならないよう、地域住民の主眼的参画や文化的価値の尊重が不可欠ですが、その視点が抜けています。 特に相馬野馬追や地域の馬事関係者の中に「野馬追を見せ物にすべきではない」「特定の関係者のみに偏った事業化は好ましくない」と考える方がいることも事実であり事前の関係者調整が必要かと思いますが、一般社団法人相馬野馬追や各地区の騎馬会等と協議をされた、もしくはこれからされる予定があるのでしょうか。	意見	説明	・相馬野馬追は 1 千年以上の歴史を有する最大の地域資源ですが、その魅力を市内外の方々へ伝えられるのは野馬追開催時の 3 日間に限られているのが現状です。市内で最も集客力のある場所に伝承施設を設置することで、1 年を通じた野馬追文化の発信を行い、より深く野馬追文化を理解いただくとともに、本施設によって興味を持った人が、野馬追に参加するきっかけや武具や馬具等の修繕技術の継承のきっかけを作れるような施設にすることを想定しています。 ご意見としていただいた「何を、誰に、どのように伝えるのか」という視点については、「相馬野馬追をはじめとする馬事文化を、できるだけ多くの方に、地域最大の集客力を生かして、深く知りたくなるきっかけを提供したい」と考えています。今後、施設の設計や施工、運営業務を担う事業者を公募することになりますが、設置目的の実現を図る上で最適な事業者が選定できるよう、今後も検討を重ねてまいります。 ・馬事文化や相馬野馬追に関連する伝統行事について、関係団体との協議・調整が必要であることは重々承知しております。検討体制を構築してまいります。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
37	パブリックコメント	事業目的に「市内の地域活動や経済に波及させることによりまちを元気にするため」との記載があるが、手法である鹿島SAの周辺開発についてはSAに人を留める施策が散見される。また、市内事業者にメリットがあるとしてもそれは微々たるものになるのではないかと。目的と手法に矛盾を感じる。本事業の目的の再検討もしくは手法の再検討が必要であると考えます。	意見	説明	「南相馬鹿島SA周辺開発についてはSAに人を留める施策が散見される」とのご意見をいただきましたが、これは、想定する施設・コンテンツをご覧になってのご意見かと拝察いたします。基本計画の中で想定している施設・コンテンツについては、いずれも当地域の地域資源の魅力を伝えるために想定したものであり、確かに得られる直接的なメリット（≒収入）は限定的かもしれませんが、市としては多くの来訪者に地域資源の魅力を「知っていただく」ところに価値を見出しています。地域資源の魅力に触れて当地域のファンになり、繰り返し訪れたり周辺地域まで足を伸ばしたり、SNSでの情報拡散に繋がることにより、地域の魅力が世界に広がっていくことも夢ではないと思っています。そうなれば、SAでの直接的な収入だけではなく、インターネット販売における収入増も期待できます。また、「まちをつくる」という点においても、大きなメリットがあると考えています。まちに人を送り出すほか、地域内に大きな市場があることがまちの再生に貢献し、売上増加に伴う単純な税収増のほかに、ふるさと納税の返礼品の充実による税収の増加や、まちの伝統文化の保存伝承を図る上でも、今回の周辺開発が果たす役割・効果は大きいものと考えています。
38	パブリックコメント	「移住者」という言葉が散見され、市民に対しての雇用創出には寄与しないように感じる。そのような意図は無いにしても無駄な分断を煽るような表示については修正をして頂きたい。	意見	基本計画に反映（修正・追記）	ご意見をいただきました【②まちを再生する】については、決して「新たな移住者」のみを想定したものではなく、地元出身者のUターンも想定したものです。実際に、大学進学時に若者が大量流出していた地方都市において、若者が働きたくなる場所ができたことにより、Uターン者が激増した先行事例は全国に数多く見られます。今回の周辺開発によって、新たな移住に加えてUターンの増加も実現したいことから、この項目を設定しました。意図が伝わりづかったことから、Uターンの表記を加えました。併せて、既存生産者にもメリットがあるものと考えことから、その旨加筆しました。 【修正箇所】 「7. 事業コンセプト」「(3)まちをつくるSA」「②まちを再生する」の説明文へ 「市内の既存生産者にとってもプラスとなる。」を追記。（P54） 詳細は別紙3のとおり。
39	パブリックコメント	【宿泊・温浴コンテンツについて】 観光牧場・体験型宿泊の事業化困難性が無視されているように感じます。「四季折々の自然に囲まれた牧場の中で、馬と共に過ごす特別な時間を宿泊者に提供」といった構想は魅力的ですが、国内外の観光牧場の多くが運営難に陥っている現実や、維持管理コストの高さ、動物福祉・衛生管理の厳格化など、事業化の難しさに対する具体的な分析やリスク評価が見当たりません。実際、観光牧場や体験型宿泊施設は、集客力の維持・差別化・収益性確保が難しく、閉鎖や縮小に追い込まれる事例が全国で多発しています。 南相馬市の人口減少・高齢化、観光需要の季節変動、アクセス条件などを踏まえれば、安易な事業化は極めてリスクが高いといえますが、この一定の面積が必要となる想定事業が実施されない場合の代替案の募集等はどのような手続きを想定されているのでしょうか。	意見	説明	当地域における最大の地域資源は、相馬野馬追をはじめとする馬事文化であると考えています。この伝統文化を、当地域で最も集客力のある場所で体験コンテンツとして提供することは、地域の特徴を来訪者に印象付ける上でも、非常に大きなアドバンテージになるものと考えています。また、旅行者が求める非日常感の提供にも繋がるものと考えています。確かに、動物を扱うことになりますので、解決すべき課題は決して少なくないとは思いますが、今回、民間事業者との連携を図る上では、まずは市として実現したい形を示すことが大切であると考えます。その上で、民間事業者の実現性や採算性を含めてご検討いただくといいのが、官民連携手法のあるべき姿だと思います。 ゼロか100かを議論するだけでなく、理想の姿の実現を目指し、まずはできるところから取り組んでいくということも、選択肢にあっていると思っています。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
40	パブリックコメント	【「まちに人を送り出す」について】 「SAが持つ集客力を地域が活かせていない」として一部の道の駅などの事例を挙げられているが、これらの事例では、どの程度の経済効果が地域にもたらされており、想定外もしくは弊害等がなかった。なぜ「SAに案内板やコンシェルジュを置けば、高速道路を降りて市内に人が流れるのか」「今、市内に人が流れていないのは、単純に魅力を知らないだけで、知ったらみんな市内に行く」と考える論拠はどこにあるのでしょうか。	質問	説明	基本計画の中で紹介しているコンシェルジュの設置やミニツアーの企画に共通するのは「人と人のつながり」だと考えています。従来のパンフレットに加え、インターネットの普及により旅先の情報は昔と比べて各段に得やすくなったとは思いますが、こうした公式の情報源からは得られない情報も、人と人の対話からは得られるようになるものと考えます。また、コンシェルジュを常設することにより、スキルが向上して提供する情報の質も向上していくことが期待されます。また、コンシェルジュが意図的に高速道路を下りた先のスポットを紹介することも可能と考えますので、「まちに人を送り出す」という視点では、有効であると考えます。
41	パブリックコメント	大熊町の道の駅について (1)大熊町の道の駅も2030年に開業を目指しているとの報道がされているが、これに伴う影響は考えているか。 (2)施設内容が被らないように大熊町と協力や調整を行う考えはあるか。	質問	説明	(1)大熊町から先日示された「大熊IC周辺整備基本計画」を拝見すると、隣接するパーキングエリアを介して高速道路と直結する道の駅を整備する構想があるものと認識しております。一方で、高速道路の直結のために必要となるパーキングエリアの事業化については、現時点で国土交通省やネクスコ東日本から公表されておらず、これから協議がなされるものと思われます。本市としては、引き続き今後の推移を注視してまいりたいと考えます。 本市が目指すのは、民間事業者のノウハウを最大限に活用しながら魅力ある地域資源を来場者に提供する場所をつくることであり、大熊町の道の駅の影響が全くないとは言いきれませんが、差別化は十分可能であると考えております。 (2)本周辺開発は、事業コンセプトの1つに、既存のサービスエリアの枠にとらわれない「まちをつくるSA」という現状存在しない新しい概念を据えており、施設内容などの機能については、大熊町の道の駅と全く異なるものであると捉えています。そのため情報共有については、今後も大熊町とは適宜行いたいと考えておりますが、施設内容の協力や調整については、検討しておりません。
42	パブリックコメント	地域の皆や訪れた方(年齢問わず)が癒される日帰り温泉(日帰り入浴施設)施設を建ててほしいです。 地域の野菜や美味しい食べ物、伝統的なお土産等をたくさん取り入れて地域の方も訪れた方も幸せな気持ちになれる施設等がほしいです。 写真スポットがあると良いと思います。	意見	説明	地域資源の魅力をより深く体感していただくためには、エリアへの滞在時間を延ばす仕掛けが有効であると考えます。その視点で考えたときに、温浴施設は有力なコンテンツであると考えます。 また、地域資源の魅力を伝える上で、地元のを活用した飲食・物販コンテンツは必要不可欠であると考えますので、民間事業者から良い提案がいただけるよう、市としても民間事業者との対話、公募に向けた条件設定を検討してまいります。 写真スポットの設定も、集客だけでなく、SNS等での魅力拡散において非常に有効であると考えますので、検討させていただきたいと思います。
43	パブリックコメント	今の南相馬市には自分の娘が働いて欲しいと思える仕事がありません。 鹿島SAを若い女性達が、UターンやIターンして働きたいと思える場所にしてみたい。親自身も、他に魅力的な職場があるなら、市外に就職しても仕方がないと諦めている。魅力的な職場を作ることが、若者が戻ってきたり、移住者が選ぶ理由になると思う。鹿島SAもその視点も是非持って事業を進めて欲しい。 期待しています。	意見	説明	市としても、今回の周辺開発で、若い世代の方が働きたくなる場所を実現したいと考えています。先行事例では、新しいホテルを建設して、スタッフ100名のうち半数がUターン者である施設や、新たな複合型商業施設が整備され、そこで働きたくて移住した方がいる地域など、成功事例も多くあります。そうした事例を参考としながら、利用者にとってもスタッフとして働く方にとっても魅力的な場所ができるよう、取り組んでまいります。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
44	パブリックコメント	表題の件につきまして、意見・提案を書かせていただきました。 私たちは、南相馬市に住むアウトドアが好きな夫婦です。広報を拝見し、鹿島サービスエリアの周辺開発に事業エリアの自然体験・遊び場が入っていることをとても嬉しく思いました。これまで、自然遊びができる場所を中心に、たくさんの経験をしてきました。移動の中で、道の駅やサービスエリアを利用させていただくことが多く、ぜひ、お気に入り施設やサービスを地元にも取り入れていただきたいと考えています。 私たちには、まもなく娘が産まれます。遠出が難しくなりそうですが、地元でも楽しい経験をたくさんさせてあげたいです。ご検討のほど、よろしくお願いいたします。	意見	説明	仙台圏の子どもを持つ親世代を対象に行った調査では、子どもの遊び場として「市外の大規模公園」を選択する方が4番目に多かったという結果でした（詳細は基本計画P49参照）。このことから、仙台圏からの誘客を考えると、子どもの遊び場の整備はととても有効であると考えます。 また、今回の開発予定地の現況が山林であることから、地形を活かした自然体験ができる場所とすることも可能であると考えます。 今回の計画案をご覧になって、間もなく生まれてくる娘さんとの楽しい生活を想像いただけたことは、私どもとしても大変嬉しく思います。娘さんに「毎日でも行きたい」と思ってもらえるような場所となるよう、今後も検討してまいります。
45	パブリックコメント	想定される施設について (1) 駐車場については、基本計画で示されている必要駐車台数から見ても余裕のある広さを設けて欲しい。個人的にSAへ立ち寄る理由としては駐車場の広さ（駐めやすさ）と食事が大きいと思うので。 (2) 基本計画に記載のある乗馬しての森林散歩は良いと思う。売り込みするときの目玉となる物があるとアピールしやすいと思うので馬や甲冑関係等で売りとなるものを創って欲しい。	意見	説明	(1)高速道路用は上下線合わせて約800台（高速道路から直結・現在約120台）・一般道路用は約240台（県道から直結・現在約120台）の整備を想定しており、必要な駐車マスを上回った余裕のある広さを設ける予定です。 (2)ご意見の通り、地域資源を情報発信して行くためには、売り込みをする際の目玉となるものが必要であると考えております。馬や甲冑関係につきましては市の資産であることから、今後これらの資産も踏まえながら、売りとなるものを創って行きたいと考えております。
46	パブリックコメント	ETC専用以外の出入口も設けた方が、幅広く人の出入りがあるのではないかと。	質問	説明	ETCの普及率は約95％（国土交通省ホームページより引用）であり、またETC専用以外の出入口を設ける場合、市で数十億円規模の改修・建設費用及び現金精算機等の維持管理費の負担が必要と想定されることから、投資に見合う効果が得られないため、本計画では検討しておりません。
47	パブリックコメント	セデッテかしまの周辺整備の素案が発表され、この事業が実現する事に期待します。 地域の衰退が叫ばれる中、地域にとっては未来への希望を湧きだす源資になりうる事業だと思います。昨今、交流人口の拡大に重要性が増す中、民間事業者と市が手を結ぶことによって、SAから南相馬全域へ人の流入を計る仕組みづくりの構築を望みます。施設の中に、相馬野馬追の伝承館が計画にあります、この施設で地域の魅力を発信し、見てみたい・行ってみたいと想わせる映像・音響・空間を創りだし、他にないインパクトを感じさせる演出も重要だと思います。と同時に、紹介された場所・空間の磨きあげも必要だと思います。この相互の作用により交流人口が拡大し、地域振興・活性化へ繋がる事を期待します。	意見	説明	本計画に期待の声をお寄せいただきありがとうございます。 東日本大震災を経て、地域外から多くの方がこの地域を訪れるようになりましたが、今後も未永く交流を続けていくためには、活性化の拠点が必要であると考えています。先人が努力と交渉を重ねられ、その結果南相馬市鹿島区への誘致が実現したサービスエリア、そして株式会社野馬追の里がオープンから10年間かけて、福島県内でも有数の集客力のある施設となったセデッテかしまを、次のステージへと押し上げるのが我々の役目であると考えています。 地元商工団体や地元事業者の皆様とともに、ご提案いただいた形の実現を目指してまいりますので、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
48	パブリックコメント	この度の南相馬鹿島サービスエリア周辺開発基本計画につきまして、更なるまちの活性化と共に、環境面でのブランド価値向上と地域の脱炭素化の視点から、クリーンエネルギー施設等の整備を基本計画に盛り込むことをご提案させていただきます。 基本計画において想定される事業内容には、ホテル、温浴施設、レストラン等の施設が想定されており、相当量の電力や熱エネルギーの消費が見込まれます。 これらの消費エネルギーを、地域に適したクリーンなエネルギーとすることで、環境価値と経済価値の両立、さらには災害時の自立性強化にもつながると考えております。このようなエネルギーインフラ設備を開発計画に組み込むことで、ゼロカーボンシティのまちづくり宣言をしている南相馬市の指針に沿った、脱炭素社会の実現に資する開発計画になると考えております。 ●想定されるクリーンエネルギー施設等の概要 <太陽光発電施設> 南相馬鹿島SA 周辺は、日照条件に恵まれた丘のような地形を活用して、太陽光発電を導入することで、クリーンエネルギーの地産地消が可能となります。勾配のある敷地形状は、景観を損なわずにパネル設置がしやすく、自然と調和したクリーンエネルギー活用の象徴となり得ます。また、災害時の非常用電源としての機能も果たし、交通拠点としてのレジリエンス向上にも寄与します。 <バイオマス発電施設> 南相馬鹿島SA 周辺は、緑豊かな丘陵地に囲まれ、林地残材や農業副産物、さらに高速道路から発生する刈草や樹木の剪定枝といった地域資源の活用が見込まれます。 また、南相馬市には帰還困難区域の樹木剪定等の課題もあります。木質バイオマス発電や熱利用設備を導入することで、宿泊施設や温浴施設に対して熱と電力の両方を安定供給のみならず、地域資源の活用や地域課題対策を可能にする地域循環型のエネルギーインフラとして機能すると考えております。 <廃棄物処理施設発電・廃熱利用> 南相馬鹿島SA は、広域交通の結節点であると同時に、周辺に一定の土地余地と丘陵地形を持つ立地特性があります。これらを活かして、将来的に廃棄物処理施設と連携した廃棄物発電・排熱利用システムを構築すれば、宿泊・温浴・飲食施設への電気・熱供給による地産地消型エネルギー利用が可能となります。地域の生活インフラとエネルギーが共生する「環境配慮型ハブ」としてのモデルエリア形成に資するものと考えております。 ●複合型クリーンエネルギー施設によるランニングコスト削減と災害対策強化 クリーンエネルギー施設の整備にあたっては、蓄電池やEMS（エネルギーマネジメントシステム）、一括受電方式などを組み合わせた複合型クリーンエネルギー供給システムの構築により、開発エリア内の各施設における電力・熱の自立化と効率的な利用が可能となり、日常的なランニングコストの削減が期待できます。運営費の抑制だけでなく、事業の競争力や持続性も確保できると考えております。また、災害時における非常用電源やBCP 対応の強化にもつながり、地域全体のレジリエンス向上にも大きく寄与すると考えております。	意見	基本計画に反映（追記）	本市は令和4年度にゼロカーボンシティ宣言をしており、市民・事業者・行政等、官民が一体となって協力しながら市内の二酸化炭素などの温室効果ガスの削減に取り組んでいることから、ご提案いただいた内容はこれを実現するための具体的な内容が記載されており、本市の目指す姿と合致するものです。 また、周辺開発においてエネルギーの確保は重要な視点であり、維持管理コストの削減にも繋がる提案であると考えられることから、基本計画に内容を書き加えるとともに、どのように周辺開発に反映できるか、今後の検討課題として議論を進めてまいります。 【追記箇所】 「14. 今後の検討課題」へ追記。（P110）

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
		<事業ランニングコスト削減> 【1】施設ランニングコストの削減効果 ▼エネルギー自給による電力購入費の抑制 太陽光発電＋蓄電池により、日中の自己消費割合を高めることで、商用電力の購入量を削減が可能。 ▼熱供給型設備による燃料費の削減 木質バイオマスボイラーや廃棄物処理の廃熱利用等により、温浴施設・宿泊施設・厨房等への給湯や暖房に必要な熱源コストを代替。地元森林資源や廃棄物等を活用することで、燃料の安定調達とコスト平準化が期待できる。 ▼ピークカットによる基本料金圧縮 一括受電とEMS によるエネルギー需給調整と蓄電池活用でピーク電力を抑制し、契約電力の削減による基本料金圧縮が可能。 ▼脱炭素経営に資する長期的コスト回避 今後拡大が予想される炭素税・環境負荷調整コストへの対策として、クリーンエネルギー導入はリスクヘッジに有効。ESG 配慮型施設としての評価向上も見込まれ、事業収益面に好影響が期待される。 【2】災害対応機能とコスト削減の両立 ▼非常時におけるマイクログリッドによる自立運転体制の構築は、停電による営業停止や損失リスクを回避（事業継続性の担保） ▼電力インフラ依存の低減により、BCP 対策費用や非常用発電機等の運用コストも抑制可能（復旧費用の削減） 【3】次世代エネルギーパーク化（仮）による収益補完・誘客による間接的コスト回収 ▼複合型エネルギー供給施設を「次世代エネルギーパーク（仮）」として整備し、見学・体験・教育機能を付加することで新たな収益機会を創出。 ▼エネルギー学習・脱炭素ツーリズム・企業研修等による来訪者増加により、周辺施設（飲食・宿泊・物販）の売上増加＝実質的なランニングコスト負担軽減に貢献。 ▼学校教育・企業視察・CSR 活動の受け入れ拠点として整備すれば、施設の広報価値と外部資金の獲得可能性も向上。 このように、複合型クリーンエネルギー供給施設の導入は、単なる環境配慮ではなく、施設運営における実質的なコスト削減手段として実効性の高い手段となり得ます。 電力・熱エネルギーの地産地消によって、光熱費などの直接経費を削減するとともに、災害対応・集客・教育活用などを通じて、間接的なコスト負担の軽減や新たな収益創出にもつながると考えております。 <災害対策強化> 【1】エネルギー供給の維持（停電時の電力確保） 商業施設、トイレ、宿泊施設、災害時避難スペースなどに対し、電力供給を維持。蓄電池や非常用発電機と組み合わせ、系統電力停止時でも最小限のインフラ維持が可能。			

No.		意見・質問		回答	
		内 容	区分	対応	市の考え方
		【2】地域住民・通行者の一時避難機能 高速道路利用者や近隣住民の一時滞在・避難所として、照明・給水・冷暖房・通信の最低限の機能を確保。 EV 充電や簡易シャワー、携帯電話充電など、災害時ニーズへの対応等。 【3】地域支援拠点としての活用 被災地支援活動のための物資供給・ボランティア拠点・広報基地として機能可能。 物流アクセス性（高速IC 至近）を活かし、迅速な支援物資集積拠点にもなる。 【4】分散型エネルギーによるBCP 対応 一体的に設計されたマイクログリッド構造により、SA 全体が地域分散型BCP（事業継続計画）拠点として機能。 自営線・EMS（エネルギーマネジメントシステム）との連携により、系統からの切り離し・自立運転への切り替えが可能。 このように、複合型クリーンエネルギー供給施設の導入は、災害時の「命を守る」地域インフラ拠点としてだけでなく、観光・商業拠点としての魅力向上の付加価値も創出できます。特に東日本大震災を経験した南相馬市においては、エネルギーの自立性＝地域の安全性を高める象徴的なプロジェクトになると考えております。 ●複合型クリーンエネルギー施設の事例 事例①：茅部郡森町 再エネ施設見学ツアー（北海道） 参考URL： https://www.town.hokkaido-mori.lg.jp/soshiki/kikakushinko/1/1/2124.html?utm_source=chatgpt.com （特徴のポイント） ・地熱、バイオマス、太陽光など複数再エネ施設を巡る見学ルートを構築 ・町主催で個人・団体に対応、直接現場での学びと地域誘客を両立 ・地域資源を活用した産業観光モデルとして注目 事例②：気仙沼市 気仙沼地域エネルギー開発（宮城県） 参考 URL:https://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/B_industry/frontrunner/reports/r3engine05_kesennumaenergy.pdf （特徴のポイント） ・地域資源活用による電力・熱の地産地消 ・地域経済循環と雇用創出 ・災害対応型エネルギー拠点の構築 事例③：コペンハーゲン コペンヒル（デンマーク） 参考URL： https://hillslife.jp/learning/2020/10/05/copenhill-turns-a-power-plant-into-the-bedrock-for-social-life/ （特徴のポイント） ・廃棄物発電＋地域熱供給＋レクリエーション施設の三位一体モデル ・ごみ発電施設を「市民が訪れ、楽しむ場所」に再定義 ・エネルギー施設の可視化・学習機能・観光資源化に成功			